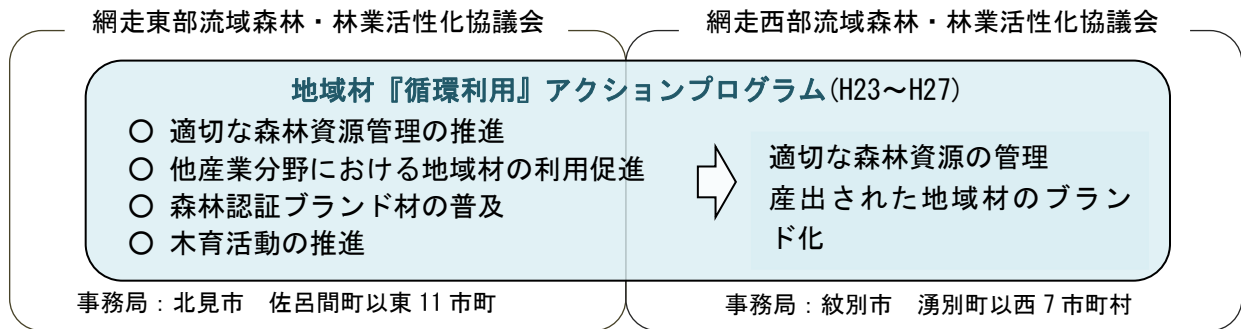
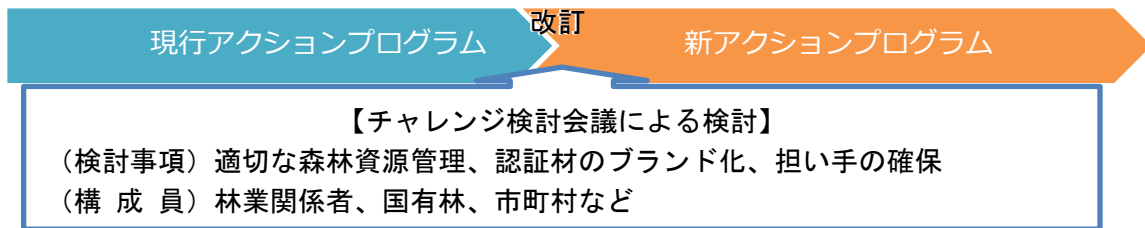


# 1 アクションプログラムの改訂概要

網走東部及び西部流域森林・林業活性化協議会（以下「協議会」という。）では、オホーツク管内における適切な森林資源の管理と地域材の利用促進に向けた行動である「地域材『循環利用』アクションプログラム」を平成22年度に策定し、各種取組を展開してきました。

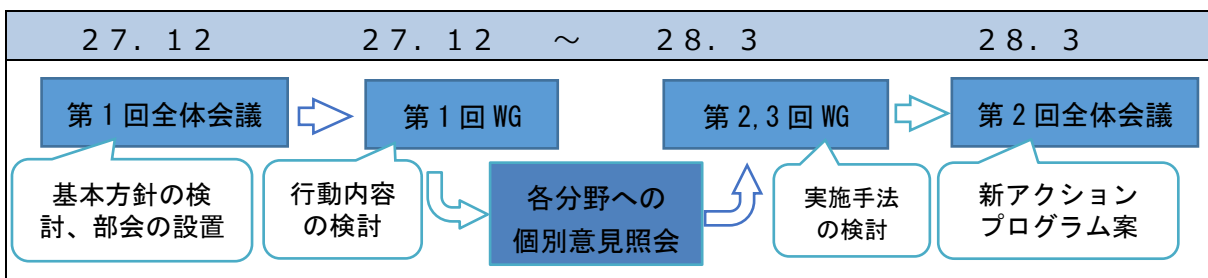


協議会では、今後とも適切な森林資源の管理や認証材のブランド化、担い手の確保などの課題に対応するため、関係団体等の有識者の方々からご意見をうかがいながら、平成28年度を始期とする5年間のアクションプログラムを改訂しました。



## 2 改訂の進め方

「チャレンジ検討会議」（全体会議）で基本方針等を検討し、行動内容や実施手法の検討については、8～10名の少人数によるワーキンググループ（WG）で検討を行い、アクションプログラムを改訂することとしました。なお、行動内容についてはチャレンジ検討会議の構成員のほか森林ボランティア団体や消費者団体など幅広い分野の地域の方々にも意見を照会しました。



## 3 会議の構成員

「チャレンジ検討会議」の構成員は東部・西部流域両協議会の幹事会構成員としました。また行動内容及び実施手法を検討するWGのメンバーは、全体会議座長推薦の東京農業大学実学センター小川繁幸助教をチーフとして、東西流域の川上・川下関係者に参画してもらい、必要に応じて他産業分野の関係者を呼び、意見をもらいました。